

2 0 2 5 年 度
事 業 報 告 書



2 0 2 6 年 6 月 5 日

学校法人 東洋食品工業短期大学

目 次

1. 法人に関する事項

- (1) 法人の目的と概要
- (2) 理事・監事・評議員
- (3) 運営に関する事項
- (4) 人員の推移（常務理事学長を除く）
- (5) 組織

2. 短期大学に関する事項

2-1. 2025年度の短期大学事業活動総括と到達度評価

- (1) 2025年度からの中期目標と2025年度方針
 - 【2025年度からの中期目標】
 - 【2025年度方針】
 - 【2025年度の活動総括】
 - 【人員計画】
 - 【卒業生・新入生の状況】
- (2) 教学部門の事業活動総括と到達度評価
- (3) 事務室部門の事業活動総括と到達度評価
- (4) 総務部門の事業活動総括と到達度評価

2-2. 2025年度の事業実績

- (1) 私立大学等経常費補助金の獲得
- (2) 学生支援
- (3) 地域社会との交流・支援
- (4) 事務改善（SD活動）
- (5) その他の大学情報
- (6) 成果の外部発信

3. 決算

- (1) 2025年度決算
- (2) 主な財産内訳
- (3) 監査報告書

1. 法人に関する事項

(1) 法人の目的と概要

I. 設立年月日 認可 昭和 36 年 3 月 10 日

II. 資産総額 14,805,939,531 円 (2026 年 3 月 31 日現在)

III. 法人の目的

この法人は、教育基本法及び学校教育法及び私立学校法に従い、学校教育を行い、有為な人材を育成することを目的とする。(寄附行為第 3 条)

IV. 施設 (主な土地・建物内訳)

科 目	名 称	面 積 (㎡)	簿価(千円)	前年比千円
土 地	大学敷地	13,308.6	35,047	0
	学生寮	1,747.4	3,211	0
	小 計	15,056.0	38,258	0
建 物	本館校舎棟	5,248.8	2,288,381	2,288,381
	旧本館校舎棟	3,309.6	194,123	△10,124
	南館	546.3	91,012	△9,379
	体育館	1,148.9	142,829	△5,074
	その他	0.0	359	△174
	小 計	10,253.6	2,716,704	2,263,631
	合 計		2,754,962	2,263,631

(2) 理事・監事・評議員

1. 理事・監事

2026 年 3 月 31 日

	氏 名	任期 (就任日及び満期日) *1
理 事 (2 号) (理事長)	中井 隆夫	2025. 6. 7～4 年間
理 事 (1 号) (常務理事・学長)	飯田 有二	2025. 6. 7～4 年間
理 事 (2 号)	高碕 太郎	2025. 6. 7～4 年間
”	三木 啓史	2025. 6. 7～4 年間
”	中島 周	2025. 6. 7～4 年間
”	切畑 光統	2025. 6. 7～4 年間
”	小林 公一	2025. 6. 7～4 年間
”	千本 克巳	2025. 6. 7～4 年間
”	嵐 幸子	2025. 6. 7～4 年間
監 事	中川 徹也	2025. 6. 7～4 年間
”	小松 康宏	2025. 6. 7～4 年間

*1 選任後 4 年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時

選任条件及び定員

理事 定員 5 名以上 10 名以内 現在 9 名

1 号理事 学長で評議員会により選任したもの 1 名

2 号理事 前号の他、評議員会選任理事 4 名～9 名

理事長の職務代行者は常務理事（業務執行理事）があたる。

理事の任期 4 年。但し補欠選任者の任期は前任者の残任期間。

監事 定員 2 名以上 3 名以内 現在 2 名

2. 評議員

任 期	4 年
定員	12 名以上 18 名以内 現在 15 名

2026 年 3 月 31 日

氏 名	任期（就任日及び満期日）*1
【学識経験者】 5 名以上 10 名以内	
1 藤田 紫	2025. 6. 7～4 年間
2 田原 義久	2025. 6. 7～4 年間
3 小川 修司	2025. 6. 7～4 年間
4 角田 祐喜男	2025. 6. 7～4 年間
5 岡本 雅志	2025. 6. 7～4 年間
6 末松 伸一	2025. 6. 7～4 年間
7 難波 誠	2025. 6. 7～4 年間
8 福森 正明	2025. 6. 7～4 年間
9 村岡 浩幸	2025. 7. 1～4 年間
【法人の職員】 2 名以上 4 名以内	
10 甲斐 正次郎	2025. 6. 7～4 年間
11 田上 健二	2025. 7. 1～4 年間
12 牧志 貴明	2025. 6. 7～4 年間
【卒業者】 2 名以上 4 名以内	
13 西山 正一	2025. 6. 7～4 年間
14 香川 保則	2025. 6. 7～4 年間
15 鈴木 稔	2025. 6. 7～4 年間

*1 選任後 4 年以内に終了する会計年度のうち最終のものに関する定時評議員会の終結の時

選任条件 評議員会にて選任

(3) 運営に関する事項

1. 理事会

開催日	議案・報告事項
令和 7(2025)年 6 月 6 日 (第 1 部)	2024年度事業報告・決算承認の件 2024年度末資産総額変更承認の件 理事長退任承認の件 学長常務理事退任後選任(再任)の承認の件 評議員会選任理事1名退任の承認の件 理事8名退任後選任(再任)の承認の件 評議員12名退任後選任(再任)の承認の件 評議員 8 名退任の承認の件 評議員 3 名選任(就任)の承認の件(学識経験者・法人の職員) 監事 2 名退任後選任(再任)の承認の件 学事顧問1名退任の承認の件 会計監査人選任の承認の件 諸規則規程類一部改定案承認の件 定時評議員会の招集の件 (報告事項) 理事長及び常務理事の職務執行状況について 「寄附行為」申請後の警備な修正後文部科学省承認完了 新校舎建設プロジェクト進捗報告 新寮社宅建設プロジェクト進捗報告 基本金積立予想と大型投資案件について 近況報告など
6 月 6 日 (第 2 部)	2025年度第一次補正予算案承認の件 理事長選任(再任)承認の件 常務理事選任(再任)承認の件 会計監査人の報酬等の承認の件 役員・評議員の報酬等に関する規程一部改定案承認の件 (報告事項) 評議員会議案決議、諮問事項の結果ほか
9 月 5 日	(報告事項) 理事長及び常務理事の職務執行状況について 新校舎建設プロジェクト進捗報告 新寮社宅建設プロジェクト進捗報告 資金収支中長期計画について 近況報告
11 月 21 日	組織の制定改廃案承認の件 諸規則規程類制定一部改定案承認の件 (報告事項) 理事長及び常務理事の職務執行状況について 事業中間報告 新校舎建設プロジェクト進捗報告 新寮社宅建設プロジェクト進捗報告 基本金積立予想と大型投資案件について 諸規定類一部改定について その他

令和 8(2026)年 3 月 5 日 (第 1 部)	2025年度第2回評議員会議案の事前承認の件 (報告事項) 理事長及び常務理事の職務執行状況について 新校舎建設プロジェクト進捗報告 新寮社宅建設プロジェクト進捗報告 諸規定類一部改定について
3 月 5 日 (第 2 部)	2 0 2 5 年度第二次補正予算案承認の件 2 0 2 6 年度事業計画案・予算案承認の件 諸規程類一部改廃案承認の件 (報告事項) 基本金積立予想と大型投資案件について 評議員会議案決議、諮問事項の結果ほか

2. 評議員会

評議員会開催日	議案・諮問事項・報告事項
令和 7(2025)年 6 月 6 日	理事 8 名退任後選任（再任）の承認の件 学長理事1名退任後選任(再任)の承認の件 評議員会選任理事1名退任の承認の件 評議員 1 2 名退任後選任（再任）の承認の件 評議員 8 名退任の承認の件 評議員 3 名選任(就任)の承認の件(学識経験者・法人の職員) 監事 2 名退任後選任（再任）の承認の件 学事顧問 1 名退任の承認の件 会計監査人選任の承認の件 (諮問事項) 2 0 2 4 年度事業報告・決算の件 2 0 2 4 年度末資産総額変更の件 2 0 2 5 年度第一次補正予算案の件 役員・評議員の報酬等に関する規程一部改定の件 会計監査人の報酬等の件 諸規則規程類一部改定の件 (報告事項) 理事長及び常務理事の職務執行状況について 「寄附行為」申請後軽微な修正後文部科学省承認完了 新校舎建設プロジェクト進捗報告 新寮社宅建設プロジェクト進捗報告 基本金積立予想と大型投資案件について 近況報告など
令和 8(2026)年 3 月 5 日	評議員 1 名退任の承認の件（学識経験者） 評議員 1 名選任の承認の件（学識経験者） (諮問事項) 2 0 2 5 年度第二次補正予算案の件 2 0 2 6 年度事業計画案・予算案の件 (報告事項) 組織の制定改廃について 諸規則規程類制定一部改廃について 理事長及び常務理事の職務執行状況について 新校舎建設プロジェクト進捗報告 新寮社宅建設プロジェクト進捗報告 基本金積立予想と大型投資案件について 近況報告など

(4) 人員の推移 (常務理事学長を除く)

各年 3月31日現在

短期大学の教職員の人員推移

	総務部			包装食品工学科						事務室・図書館			合計		
				専任教員			委嘱兼任講師			(技術職員含む)					
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
2026年	4	1	5	13	5	18				4	4	8	21	10	31
2025年	1	1	2	14	5	19				7	5	12	22	11	33
2024年	1	1	2	13	5	18				7	5	12	21	11	32
2023年	1	1	2	14	5	19				7	5	12	22	11	33
2022年	1	1	2	15	5	20				5	5	10	21	11	32
2021年	1	1	2	15	4	19				5	5	10	21	10	31
2020年	1	1	2	17	4	21	-	-	-	5	5	10	23	10	33
2019年	1	1	2	15	4	19	-	-	-	5	4	9	21	9	30
2018年	1	1	2	17	4	21	-	-	-	6	4	10	24	9	33
2017年	1	2	3	13	4	17	-	-	-	5	4	9	19	10	29

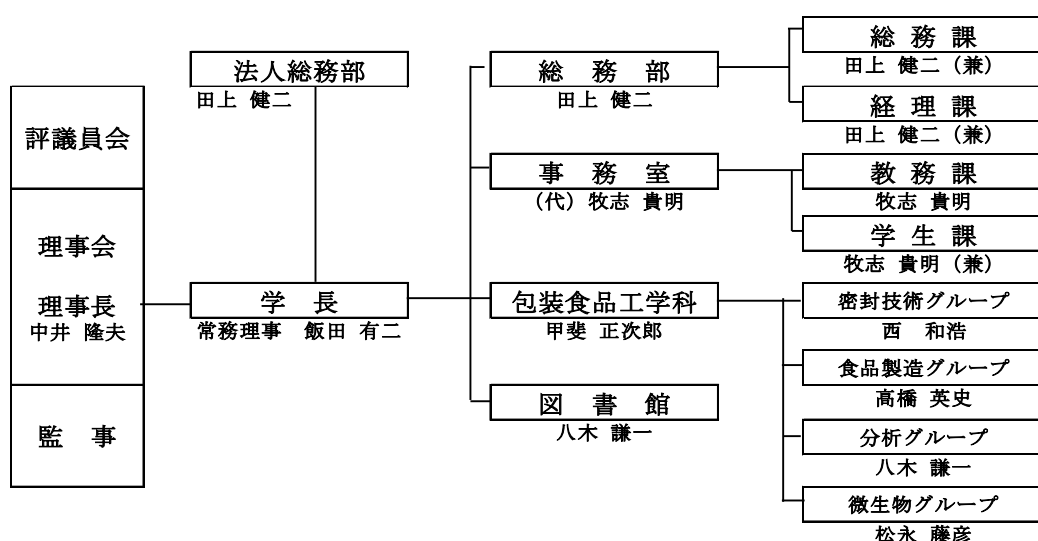
2025年3月教員 男性2名、職員 男性3名・女性1名退職、2025年4月教員 男性1名、職員 男性1名入職、2025年7月職員 男性2名入職

(5) 組織

学校法人の事務組織

組 織 図

2026年3月31日



2. 短期大学に関する事項

2-1. 2025 年度の短期大学事業活動総括と到達度評価

(1) 2025 年度からの中期目標と 2025 年度方針

【2025 年度からの中期目標】

中期目標（2025 年度～）

1. 建学の精神に基づいた人材を育成するための教育
時代に即した内容を実践する
講義内容のバージョンアップや最新の技術を習得する
2. 求める教育の為の施設、設備の拡充
社会のニーズや技術の更新に即した設備を計画的に設置する
3. 充実した学習支援
授業や生活面で学生のニーズに沿った支援を提案し、行動する
4. 学生募集の更なる取り組み
時代に即した広報・選抜方法の見直しや社会人教育の拡充を図る

【2025 年度方針】

“ 建学の精神 ” に基づいた教育を充実させ、本学の特徴を活かすことで東食短大のブランドを高め、各方面に発信する。

また、少子化による学生数の減少が、高等教育の運営をきびしいものとしている状況の中、より多くの学生を輩出すべく活動する。

【2025 年度の活動総括】

将来へ向けての準備

- ・総務部及び事務室の統合（事務局として 2026 年度 4 月発足、組織の拡充）
- ・総合型選抜入試の準備（2026 年 10 月実施予定、時代に即した選抜方法の採用）
- ・寮社宅の建設（2027 年 3 月竣工、学生のニーズに沿った支援）

2025 年 4 月

- ・短大総務部の発足（ガバナンス強化）
- ・高碕記念奨学金のスタート（学生支援及び更なる学生募集）

2025 年 8 月

- ・オープンキャンパスの来場者が過去最高（学生募集の更なる取り組み）
高崎奨学金創設、新校舎建設、寮の建設について、多くの学校を訪問し、オープンキャンパスへの参加を促した。（表－1 参照）

表－1. 各年度の訪問学校数とオープンキャンパス参加者数

年度	訪問学校数	オープンキャンパス			志願者	入学者 (翌年)
		参加者総数	高3生	高2,1生		
2025	174	229 (ミニ+7ℓ)	59	41	48	41
2024	321	123 (ミニ+7ℓ)	29	26	27	22
2023	191	201 (ミニのみ)	41	25	25	24
2022	115	186 (ミニのみ)	35	22	34	31
2021	94	163 (ミニのみ)	31	19	39	34
2020	94	139 (ミニのみ)	28	14	34	28
2019	182	227 (ミニ+7ℓ)	47	24	46	35
2018	146	211 (7ℓ×2)	33	26	53	34

2025 年 9 月

- ・兵庫県立氷上高校と高大連携締結 出前授業や体験授業の実施、課外研究で協力

2025 年 12 月

- ・雲雀丘学園 “探求プロジェクト” 参画
微生物・食品製造・分析の各グループ教員が、290 名の高1生を指導

2026 年 2 月

- ・新校舎仮竣工（設備の拡充・充実した学習支援）
2026 年 3 月の学位記授与式 及び 2026 年 4 月の入学式を、新校舎の高崎講堂で開催

その他トピックス

- ・新規イベントへの参加
食育推進全国大会（6/7）、国際フロンティア産業メッセ（9/4）
- ・宇宙日本食認証取得（2026 年 1 月）
兵庫県が漁獲高全国 1 位である、ホタルイカの醤油味付け（缶詰）で認証取得

【人員計画】

① 人員計画（2025 年度及び 2026 年 4 月度、年齢は 2026 年 4 月 1 日）

退職者

今泉 俊一 （67 才） 2025 年 9 月 30 日付 教員（年令は退職時）

新規教職員採用 5 名

入江 謙太郎（56 才） 2025 年 4 月 1 日付 教員（食品製造 G）

成瀬 肖 （63 才） 2025 年 4 月 1 日付 総務部

田上 健二 （55 才） 2025 年 7 月 1 日付 総務部

小笠原 毅 （49 才） 2025 年 7 月 1 日付 総務部

大島 里詠子（38 才） 2026 年 4 月 1 日付 教員（微生物 G）

嘱託採用（再雇用）

西 和浩 （60 才） 2026 年 4 月 1 日付 教員（東洋製罐 退職による）

【卒業生・新入生の状況】

卒業生 20 名中、一般就職希望者 16 名全員が早々に内定を確保し、企業派遣生 3 名、自営業 1 名と合わせて全員が希望通りの進路を確保出来た。(表－2 参照)

表－2. 卒業生の進路状況

64期生（2026.3 卒業）	人数	備 考
	20	男性 10名、女性 10名
1. 一般就職（企業派遣除く）	16	15名が 食品・飲料関連
2. 企業派遣	3	
3. 進学、リカレント、その他	1	

2026 年度新入生は 41 名で、定員 35 名に対し 6 名定員超えの結果であった。学生数は、留年者 2 名を含む 1 年次生 43 名、2 年次生 24 名と合わせ、67 名となった。(表－3 参照)

表－3. 新入生の状況

	人数	推薦	一般	留学	社会人
志願者	48 (27)	35 (22)	12 (5)	1 (0)	0 (0)
受験者	48 (26)	35 (22)	12 (4)	1 (0)	0 (0)
合格者	41 (22)	34 (18)	6 (4)	1 (0)	0 (0)
入学者	41 (22)	34 (18)	6 (4)	1 (0)	0 (0)
		男性 22 (13)、女性 19 (9)			

新入生の内訳（出身地）は、宮城、茨城、石川、福井、長野(2)、愛知(2)、静岡(6)、兵庫(5)、大阪(8)、奈良(2)、鳥取、島根、香川、愛媛、高知、福岡、大分、佐賀、長崎、鹿児島

*企業派遣生 はごろも殿（静岡） 3 名、ティーエムパック殿（宮城） 1 名

年度別では、志願者・入学者とも定員を上回り、近年では最多となった。特に推薦入試で受験する学生が大幅に増加した結果によるものである。(表－4 参照)

表－4. 年度別志願者・入学者数の推移

年度	推薦入試		一般入試		留学生		社会人		合計	
	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者	志願者	入学者
2026	35	34	12	6	1	1	0	0	48	41
2025	22	18	5	4	0	0	0	0	27	22
2024	23	23	2	1	0	0	0	0	25	24
2023	24	24	10	7	0	0	0	0	34	31
2022	28	23	11	8	1	1	2	2	42	34
2021	25	20	9	8	0	0	0	0	34	28

(2) 教学部門の事業活動総括と到達度評価

2025 年度から新たな中期 5 ヶ年計画がスタートし、飯田学長から本学の方針が示された。

2025 年度方針

“建学の精神”に基づいた教育を充実させ、本学の特徴を活かすことで東食短大のブランドを高め、各方面に発信する。

また、少子化による学生数の減少が、高等教育の運営を厳しいものとしている状況の中、より多くの学生を輩出すべく活動する。

まず教学部門としては、新 5 ヶ年計画として下記の大項目 3 点に注力し活動している。いずれも計画通り、順調に進行している。

「学生数増加（定員確保）」・・魅力ある教育、広報活動

「スムーズな技術伝承」・・計画的採用、新校舎対応

「働きやすい職場づくり」・・職場風土、人事評価制度

また、上記方針に基づき、各専門委員会や部門にて計画的に様々な活動を実施した内容を報告する。従来と大きく変わるものではなく、順調に活動を重ねた 1 年間であった。

【報告内容一覧】

(2) - 1 学科長管掌の専門委員会に関する報告

- FD 専門委員会（高橋委員長）
- カリキュラム専門委員会（八木委員長）
- 学修支援専門委員会（牧志委員長）
- 国際交流専門委員会（松永委員長）
- 研究データ管理専門委員会（奈賀委員長）

(2) - 2 教学部門の研究テーマ数

(2) - 3 各グループ（食品製造、密封、分析、微生物）の活動

- 食品製造グループ
- 密封技術グループ
- 分析グループ
- 微生物グループ

(2) - 1 学科長管掌の専門委員会に関する報告

●FD (Faculty Development) 専門委員会 (高橋委員長)

2025年度

活動内容	評価
1. 建学の精神に基づいた人材を育成するための教育	
1-1. 大学制度の理念・目的・役割を実現するために必要な「教授団の資質改善」	
1-1-1. 大学の理念・目標を教員は理解する	○
1-1-2. 教育制度(学校教育法、大学設置基準、学則、履修規則、成績評価)を教員は理解しているかグループで確認	○
1-1-3. 大学教員の倫理規程と社会的責任の周知 (1)メンタルヘルスセミナーの受講(教員として倫理面で自己規制ができているか)	○
(2) 学生が「インターンシップ」・「他校と学術交流」・「工場見学」に参加しているか 外部講師による講義を受講し議論しているか、アクティブラーニング活動をしているか確認	○
2. 求める教育と 魅力ある教育 求める(求められる)教育とは何かの情報収集、魅力ある教育とは何かの研究、 教育の質保証を行う	
2-1. 各教員の目指す教育を明確化(ティーチング・ポートフォリオ作成)	○
2-2. FD関連の教員教育・研修(年1回 FD講習会を開催、新任教員のFD教育)	○
2-3. 学生の学位授与方針(DP)に対する学修成果達成度の把握	○
2-4. 授業・実習の学生による評価	○
2-5. 学生から授業・実習評価を受け、教員は授業改善計画書を作成	○
2-6. 教員相互の授業参観	○
2-7. 学生との対話を通じた改善(学生懇談会の開催)	○
3. 充実した学生支援 学生支援の多様化への対応	
3-1. 教員の知見獲得(学生支援に関する研修会に参加や情報収集)	○

○:今年度分完了 △:目標未達 /:中止・着手できず

1. 5ヵ年計画策定

FD 専門委員会の 5 ヵ年計画の行動項目は、文部科学省が謳う FD 活動（13 項目）に則り策定した。今年度の達成状況は上記表に示した通りである。

2. 新人教育の実施

新入教員(入江教授)に対し、FD 関係の説明は委員長から行った。FD 専門委員と共にグループワークを実施することで、教授法の 1 つである「アクティブラーニング手法」を理解してもらった。

3. 授業評価アンケートの実施と授業改善計画書の作成

学生に全ての授業・実習を評価するアンケートの回答をお願いした。アンケート結果を FD 専門委員会がまとめ、担当教員に送信した。学生からのコメント以外は本学 HP に公開した。担当教員は結果を基に授業改善計画書を作成した。今後の改善に努める。

4. FD 講習会開催

「支援を必要とする学生には合理的配慮が求められている」が、専門的実習に重きを置く本学では具体的にどのような配慮をすべきかについて教員が学ぶため、川西市社会福祉協議会 障がい者基幹相談支援センター 所長 渡邊真司様に講演をお願いし、全教員が参加して理解を深めた。

5. 学生懇談会の開催

学生会役員 4 名と 2 年次の成績優秀者 3 名から、FD 専門委員が意見を聴取*する懇談会を開催した。①授業、②実習、③カリキュラム、④卒業課題研究、⑤ソフト面(成績開示)、⑥ハード面(新棟建設関連)について意見が出た。改良・改善が必要と考えられる内容については、関係部署に連絡し対応をお願いした。

*私立大学等改革総合支援事業で私立大学等経常費補助金を得るには、学生が大学の教育研究活動に参画する一環として、学生の意見を大学側が聴取することが求められている。

●カリキュラム専門委員会（八木委員長）

2025 年度よりの新 5 ヶ年計画

活動内容	評価
1. 科目間の繋がりを理解したカリキュラムを確立する	
・食品製造プロセスにおいて各工程の役割と繋がりを理解し、問題解決を行う 資質を身につけるカリキュラムになっているか検証と改善を行う	
（1）各工程を見直す	△
（2）各工程に関係する科目を整理する	△
（3）カリキュラムマップを作成する	△
・科目間の繋がりを理解する	
（1）科目間の繋がりを理解できるような仕組みを検討する	△
（2）理解度の評価方法を検討する	△
2. 自立した学修を促すことが可能なカリキュラムを確立する	
・自立的学修を行う余裕のある時間割を検討する	
（1）授業外学修をしやすい時間割を検討する	△
（2）学修行動調査アンケートの活用方法を検討する	△
（3）一般教養科目を見直す	△
（4）CAP 制度を検討する	△
・卒業に必要な単位数を検討する	
（1）短大設置基準 62 単位以上の条件を検討する	△
（2）卒業課題研究の扱いを検討する	△
3. 資格取得に最善なカリキュラムを確立する	
・資格とその要件を見直し、資格ごとの履修モデルを策定する	
（1）資格ごとに要件となる科目を見直す	△
（2）資格ごとに履修モデルを策定する	△
・大学でサポートする資格を見直す	
（1）ヒートシール・キャッピング学内資格の扱いを検討する	△
（2）新規にサポートすべき資格がないか検討する	△

○：完了 △：目標未達 /：中止・着手できず

1. 科目間の繋がりを理解したカリキュラムを確立する

本項目については、新カリキュラムマップ作成のために活動する予定である。科目間の繋がりを理解する方法としては、継続して 4 月のオリエンテーション時にアンケートを実施している。

2. 自立した学修を促すことが可能なカリキュラムを確立する

学修行動調査アンケートに関しては、内容を一部変更し、後期のアンケートから、「授業外での学修環境」を調査項目に入れた。

3. 資格取得に最善なカリキュラムを確立する

資格取得に関しては、カリキュラム案内に記載している内容を見直し、必修・選択科目の区別など見やすくし、2026年度カリキュラム案内に反映させた。

●学修支援専門委員会（牧志委員長）

2025年度からの新・5ヶ年計画に基づき、当委員会では、以下に記す3つを新たに推進することとしている。いずれも2025年度は「現状把握（良い点、課題、等の抽出）」を行なう1年とした。

（1）学修意欲向上に繋がる面談体制の再構築

現在実施している学修成果面談、ジョブカード面談の在り方を見つめ直し、2029年度中に、より効果的な面談体制を構築することを目標としている。

そこで、2025年度は、面談の種類、各面談の意図、各面談の適切な時期、等について議論を重ね、挙げた意見としては、主に下記のとおりである。

- ・学修成果面談で用いている「客観評価」（学業成績から算出されるもの）と「主観（自己）評価」（本人が感じている成長度）について、その精度に疑問がある。新たな評価軸を考える時期ではないか。
- ・ジョブカード面談は、就職を見据えて「これまでの人生を言語化する」取り組みであり、非常に有意義である。これについては、今後も継続すべきである。
- ・学生にとって面談の場は、「新たな気づきを得られる貴重な機会」だが、一方で、必要以上の頻度で面談を重ねると、面談疲れに陥り、面談効果が下がる懸念がある。学生に対し、「どの時期に面談があると、学修意欲を刺激されるか」といった調査をしてみたい。

2026年度は、引き続き様々な議論を重ねるとともに、新たな面談体制の素案づくりに着手していきたい。

（2）基礎学力向上に繋がる支援体制の再構築

長らく実施してきている「入学前課題」「プレイスメントテスト」「リメディアル教育」を、いかに有機的につなげていくか、加えて、挑戦的な課題ではあるが、本来つなげるべき「入学者選抜の結果」といかに有機的につなげていくか、について、2025年度はざ

つくばらんに意見交換を行なった。非常に難しい課題であるため、まだ議論を尽くせていないが、主に下記の意見が挙がっている。

- ・小中高レベルの基礎学力を高めるために入学前課題（eラーニング）を課しているが、現状、小中レベルに留まっている。より適切なものを課すべきではないか。
- ・プレイスメントテスト（外部試験を活用）について、計算力や語彙力を問う問題が中心となっているが、もう少し幅広く基礎学力を問うテスト、できれば、思考力も問うテスト、でチェックしたほうがいいのではないか。

2026年度は、引き続き様々な議論を重ねるが、まずは、入学前課題の見直しを重点項目と捉え、2027年度には試行運用できるよう検討していきたい。

（３）学生の主体性を向上させる方策づくり

昨今の学生（Z世代）の傾向として、多様な価値観を尊重する協調性を持ちつつも、指示待ちになりがちで主体性が弱いと捉えられることがある。

そこで、大学生活の2年間で「主体的に行動する楽しさや魅力を体感するキッカケ」と「成功体験」を得てもらえるよう、大学から背中を押せるような方策づくりを検討する予定としていた。

しかし、次項に記載しているが、学外オリエンテーションを通して学生の一体感が醸成されたことによって、例えば学生主催行事等の開催を主体的に企画しようとする様子が見られ始めていることから、2025年度は一旦、学生の様子を見守ることとした。

（※）2025年度の特記事項

コロナ禍で中止していた「新入生向け学外オリエンテーション」を、6年ぶりに復活させた。再開の背景には、コロナ禍を境に希薄になりつつあった、学生が多様な人と関わり、対話を通じて成長していける環境をもう一度取り戻したいという教職員の強い思いがある。

本オリエンテーションでは、主に2つのプログラムを実施した。1つは、文字どおり「寝食を共に」する共同生活を通じて関係性の土台をつくること。もう1つは、プロのインストラクターによるチームビルディング研修である。実施後は、予想をはるかに上回るほど学生の表情が生き生きとしており、互いに声を掛け合いながら、前向きな空気感のまま学生生活をスタートさせていた。

さらに、参加した学生からは「自分たちの後輩にも同じ経験をしてほしい」「次は自分たちが支えたい」という声が多く寄せられ、半数以上の学生が、2026年度の新入生（後輩）向け学外オリエンテーションにメンターとして同行することを希望した。学外オリエンテーションの復活は、単なる行事の再開にとどまらず、新入生同士がつながり、次の世代を支えようとする循環を生み出すという点でも、大きな成果につながった。

●国際交流専門委員会（井上委員長）

活動内容	評価
1. 国際学術交流	
1-1. 企画及び立案	
・秋季短期研修（社会人向け）	
(1) 継続：プログラムの見直し	／
・春季短期研修（ランシット大学学生向け）	
(1) 継続：プログラムの見直し（本学学生および微生物、分析グループ）	○
・ランシット大学への本学学生派遣	
(1) 継続	○
1-2. 運営・内容充実	
・短期研修	
(1) 募集体制の強化（社会人向け）：広報活動の見直し、ウェブページの更新	／
(2) 受け入れ体制の充実（ランシット大学学生向け）：宿泊の見直し（社宅 or ホテル）	○
・留学生	
(1) 募集体制の見直し：広報活動の見直し、ウェブページの更新	○
(2) 就学サポートの充実：企業へのヒアリング（就職先を含む）、日本語教育、授業サポート、ビザ取得サポート	／
2. 海外の大学・研究機関等との研究者交流	
・カセサート大学との研究者交流	
(1) 共同研究の実施	○
3. その他（新たな取り組み）	
・ランシット大学等との研究者交流	
(1) 共同研究の実施	○
・講演会の企画・運営（ランシット大学、カセサート大学等）	
(1) 講演会の実施	／

○：完了 △：目標未達 ×：中止 ／：対象外（終了、対象時期外等）

1. 国際学術交流

1-1. 企画及び立案

・秋季短期研修（社会人向け）

(1) 継続：プログラムの見直し「／」

- ・春季短期研修（ランシット大学学生向け）

- (1) 継続：プログラムの見直し（本学学生および微生物、分析グループ）「○」

- ・ランシット大学への本学学生派遣

- (1) 継続「○」

1-2. 運営・内容充実

- ・短期研修

- (1) 募集体制の強化（社会人向け）：広報活動の見直し、ウェブページの更新「／」

- (2) 受け入れ体制の充実（ランシット大学学生向け）：宿泊の見直し（社宅 or ホテル）「○」

- ・留学生

- (1) 募集体制の見直し：広報活動の見直し、ウェブページの更新「○」

- (2) 就学サポートの充実：企業へのヒアリング（就職先を含む）、日本語教育、授業サポート、ビザ取得サポート「／」

ランシット大学学生向け短期研修を実施した（日程：2025 年 9 月 8 日～9 月 19 日）。参加者は 7 名であった（学生 6 名、引率教員 1 名）。宿泊は、社宅を利用した。ビザ申請にも対応した（身元保証書の作成）。今回、本学学生（ボランティア）および分析グループのメンバーも参画することができた。また、募集体制の見直し（留学生）として、ウェブページ：スケジュールを更新した（入学願書の見直しを含む）。

ランシット大学への本学学生派遣を実施した（日程：2026 年 2 月 24 日～3 月 4 日）。参加学生は 12 名であった（引率教員 2 名）。宿泊は、アジアエアポートホテルを利用した。今回、ランシット大学短期研修プログラム期間中に、欠席 1 名が発生した（2 日間、風邪の症状）。状況を鑑みて、適宜対応を行った。なお、参加学生には研修レポートの提出を依頼した。所感として、参加学生はタイの多様な文化に触れることで大きな刺激を受け、成長した様子が見られた。

別途、秋季短期研修（社会人向け）は開催見送りとした（新校舎の建設に伴う学事スケジュール変更のため）。

2. 海外の大学・研究機関等との研究者交流

- ・カセサート大学との研究者交流

- (1) 共同研究の実施「○」

カセサート大学と意見交換を実施した（日程：2025 年 3 月 31 日、ポリ乳酸を利用したフィルムおよび紙包材の高機能化）。加えて、学術交流協定（MOU）の更新手続きを実施した。また、カセサート大学へ訪問した（2 月 26 日：9 時～13 時 30 分）

3. その他（新たな取り組み）

・ランシット大学等との研究者交流

（1）共同研究の実施「○」

・講演会の企画・運営（ランシット大学、カセサート大学等）

（2）講演会の実施「／」

チューリッヒ大学（スイス）との研究者交流を実施した（日程：2025年6月26日）。

また、プトラ大学（マレーシア）より、「さくらサイエンスプログラム」を利用して、学生派遣を実施したい旨の打診を受けた。対応として、交流計画書を申請したものの、不採択となった。

ランシット大学（オーム先生）より、「ロンガン（龍眼）をプラスチック容器詰したい」との相談を受けた。対応として、現状と課題について意見交換を行うとともに、提案と試作を行った（日程：ランシット大学学生向け短期研修の実施期間中）。

また、キングモンクート大学へ訪問した（2025年3月2日：9時～12時00分）。

●研究データ管理専門委員会（稲津委員長）

活動内容	評価
1. 紀要の発刊継続	
（1）隔年での紀要発刊を継続する	
（1-1）紀要発刊の周知	○
（1-2）原稿の回収・査読	○
（1-3）原稿の編集と紀要の発刊	○
（1-4）次回発刊に向けた改善活動・準備	—
2. オープンサイエンスの普及と促進	
（1）学術リポジトリの認知・運用を推進する	
（1-1）学術リポジトリの活用推進	○
（1-2）運用ルール・管理等の見直し	○
（2）研究データ管理の認知・運用を推進する	
（2-1）研究ノートの活用推進	○
（2-2）学認RDMの活用推進	○
（2-3）運用ルール・管理等の見直し	○

○：完了 —：対象時期外

総括

5 カ年計画において、2025 年度に実施予定であった取り組みは、すべて達成することができた。

1. 紀要の発刊継続

2025 年度は本学紀要第 8 号の発刊年度にあたる。寄稿 1 報を含む計 5 報の原稿が寄せられ、2026 年 1 月にデータの納品を完了した。2 月末には学術リポジトリにて公開するとともに、本学ホームページ上で公開告知を行った。また、アピール会においても告知を行う予定である。なお、5 カ年計画における「次回発刊に向けた改善活動・準備（1－4）」については、2026 年度に実施予定としている。

2. オープンサイエンスの普及と促進

策定・公開済みの「研究データポリシー」に関連し、「研究データポリシー解説」を作成し、策定・公開した。

（1）学術リポジトリの認知・運用の推進

学術リポジトリの円滑な活用を目的として、トップページ上部にお知らせ欄を新たに開設した。また、学術リポジトリ公開手順に関する基本的な操作マニュアルを作成した。

（2）研究データ管理の認知・運用の推進

研究ノートおよび学認 RDM の活用については、新年度当初に教職員および 2 年次学生を対象としたガイダンスを実施する体制が定着している。運用・管理については、適切に実施することができた。異動または退職時における研究データの取り扱いについて、具体的な作業手順を作成した。

2026 年度に向けて

- ・紀要については、2027 年度発刊予定の第 9 号に向けた改善活動・準備を進める。
- ・学術リポジトリおよび学認 RDM については、管理・点検等を引き続き継続して実施する。
- ・その他、研究活動に関わる事項について、運用・管理の改善や見直しを適宜提案していく。

（2）－ 2 教学部門の研究テーマ数

教学部門の研究テーマ数は下表の通りである。2025 年度（カッコ内は 2024 年度実績）の実績では、共同研究 5 件（6）、受託研究 2 件（2）、独自研究 18 件（17）の合計 26 件（25）であった。

2026 年度は共同研究 3 件、受託研究 1 件、独自研究 17 件（内、新規独自研究 4 件）の合計 21 件で推進する。

受託研究の継続 1 件については、東洋製罐(株)から外部資金を獲得している。

テーマ内容については情報管理の観点から割愛する。

研究区分	2024 年度				2025 年度				2026 年度		
	件数	新規	継続	終了	件数	新規	継続	終了	件数	新規	継続
共同研究	6	2	4	2	5	1	4	2	3	0	3
受託研究	2	0	2	0	3	1	2	2	1	0	1
独自研究	17	3	14	7	18	8	10	5	17	4	13
合計	25	5	20	9	26	10	16	9	21	4	17

(2) - 3 各グループ（食品製造、密封、分析、微生物）の活動

●食品製造グループ（入江グループ長）

【教育】

- ①講習会：三谷水産高校向け講習会(7 月)、社会人育成講習会(8 月)、外国人向け講習会(9 月)、タイ王国ランシット大学の短期研修(2025 年 3 月)において、容器詰食品の製造方法を教育した。社会人向け HACCP 講習会（宮尾：9 月）を実施した。
- ②宇宙日本食開発：兵庫県が水揚げ量日本一のホタルイカを用い(地域貢献の一環)学生が考案したホタルイカ缶詰を宇宙日本食として JAXA に提案を行った(宮尾、高橋)。2 次審査用の書類を申請後、2025 年 3 月に JAXA による現地(本学)での製造確認があり、書類・製品確認を経て 2026 年 1 月 16 日に宇宙日本食の認証を取得した。
- ③1 年次学生の食品製造実習において、新棟竣工記念として 200 セット配布予定の缶詰 3 品（宇宙日本食のホタルイカ醤油味付け、教育連携校の兵庫農大の学生が肥育した神戸牛を用いたカレー、オレンジ）を製造した。
- ④学生工場見学引率：1 年次学生が 2025 年 10 月に本州製罐(株)兵庫工場を、2025 年 12 月に紀州食品(株)の温州みかん缶詰の製造工程とサカイキャニリング(株)の PET ボトル飲料の製造ラインを見学した。
- ⑤卒業課題研究「製品開発プロセスの研究」(宮尾)で 2 年次の湯山さんが考案した「パインアップル春巻き」が第 36 回 パインアップル缶詰料理コンテストで入賞を果たした。
- ⑥資格支援：フードサイエンティストの資格を卒業生 17 名が取得すべく支援した。

【研究】

- ① 受託研究：東洋製罐(株)からの受託テーマ「食材の加熱殺菌後の品質変化に関する基礎的研究」を継続して実施している。
- ② 共同研究：「ジビエ肉に関する成分研究や容器詰食品開発の検討」(川内、高橋)は、猪肉販売会社の(株)おゝみや、大阪公立大学、本学の 3 者で研究している。猪肉の機能性を示すことで獣害対策に貢献したい。
「魚介類容器詰食品の開発」として、硬骨魚や未利用魚の缶詰加工に関して(株)丸大と研

究を開始した。

【その他】

- ① 外部講習：缶詰・レトルト食品の業界向け HACCP 講習会で講演を行った(9月 宮尾)。
- ② 「第20回食育推進全国大会 in TOKUSHIMA」に「徳島の食材を使った災害食「温めなくても美味しいレンコンカレー」を出展し、本学の食育推進状況を示すとともに、知名度向上を試みた(6月 高橋、関)。
- ③ はごろもフーズ殿・万代殿イベントに協力した(11月)。

・HACCP 講習会

HACCP 講習会は、2025年9月19日に「第5回缶詰・レトルト食品業界向け HACCP 講習会」を開催、缶詰とレトルト食品に関する HACCP について基礎から応用まで講義した。

・他大学との連携

他大学との活動は、2025年度も継続実施した。内容は下表の通りである。10月には本学から兵庫県立農業大学校に伺い農畜産実習を、そして同大学校の学生が本学で製造実習を行い、互いに交流を図った。

2026年度は交流する大学は1校増加する予定である。

2025年度実績

日時	交流先	対象者	講義名・実習内容	開催場所	実施グループ
2025/7/28	奈良女子大学	学生23名 引率教員1名	「食品加工学」 講義 さば水煮缶詰製造	本学	食品製造G 密封G
2025/10/14	兵庫県立農業大学校	本学 64期生2名 65期生21名 本学 教員 5名	「食品製造実習」 農畜産実習	兵庫県立農業大学校	食品製造G
2025/10/20	兵庫県立農業大学校	1年次 38名 引率教員2名	「食品加工Ⅰ」 容器詰食品の講義、 ゼリーカップ詰製造	本学	食品製造G 密封G
2025/10/27	兵庫県立農業大学校	1年次 38名 引率教員2名	「食品加工Ⅰ」 容器詰食品の講義、 カレー缶詰製造	本学	食品製造G 密封G

2026年度 食品製造グループ 計画

【教育】

- ① 講習会：社会人育成講習会、外国人向け講習会(秋季)、HACCP 講習会、ランシット大

学向け講習会を実施予定。

- ② 卒業課題研究：教員 4 名で担当予定である。
- ③ 学生工場見学：学生の見聞を広げるため缶詰会社、飲料会社、容器会社の見学予定である。
- ④ 他大学との連携は継続して行う。
- ⑤ オープンキャンパスでは参加者に簡単な調理体験を通して本学への興味を高めてもらうよう取り組む。

【研究】

- ① 独自研究：「宇宙日本食製造能力の確立」（宮尾、高橋）、「レトルト耐性のある穀類加工品の技術開発」（入江、高橋）、「食品由来フラボン類の骨格筋に対する体内動態の解明と食品設計指針の確立」（関、高橋）が実施予定である。
- ② 受託研究：「食材の加熱殺菌後の品質変化に関する基礎的研究」（関、川内、高橋）は継続する。
- ③ 共同研究：「ジビエ肉に関する成分研究や容器詰食品開発の検討」（川内、高橋）、「魚介類容器詰食品の開発」（高橋、入江、川内、関）は継続する。

●密封技術グループ（井上グループ長）

1. 研究

①圧力検缶機の改善〔独自〕（西准教授）

短大独自の耐圧試験機を新規に製作した。巻締厚さを巻締推奨値より厚くしたサンプルを作成し密封が出来なくなる厚さを検証した。次年度も継続し試験機の新たな改善と更に詳細な巻締厚さと密封性の関係を探る。

②リサイクルを加味したラベル工程の構築〔独自〕（福島講師）

シュリンク後の力学的性質は、シュリンク前後で、少し伸びやすくなるものの、破断強度に大きな差は見られなかった。シュリンクフィルムに脱墨インクを用いた場合、インクは容易に剥がれたが洗浄液の温度が低い場合時間を要した。

③キャップの教育ビデオ作成と測定治具の改善〔独自〕（遠藤講師）

測定治具の改善完了動画など、32本の動画作成を行った。

④グラファイトを用いた超潤滑特性の検証（塩野講師）〔独自〕

PAO30を基油とし、添加剤の違いによる摩擦試験を実施した。結果、最も高い摩擦係数を示したのはH₂O+デンドリマーで、最も低い摩擦係数を示したのはステアリン酸、ステアリアルアルコールとなった、グラファイトを添加することによる顕著な摩擦低減効果は得られなかった。

⑤アセプティックラインの改善と再構築〔独自〕（上原助教）

アセブ製法にて美味しいお茶を作るために、さんぴん茶、ジャスミン茶などで検証した。香りが人の味覚に影響すると思われるため香気成分の制御が重要結果となった。今後のアセプライン再構築時に考慮する。

⑥各種ヒートシール方式における溶着層温度の予測〔独自〕（井上教授）

⑦超音波シールに関する基礎情報の取得〔受託〕、（井上教授）

⑧パウチにおけるヒートシール管理〔共同〕（井上教授）

PP 系モノマテリアル積層フィルムの超音波シール、ヒートシール各方式のシール強度検証をした。また独自のリサイクルフィルムを作成した。

2. 出前授業

2025 年度も受験学生確保のため、本学の PR を出前授業にて実施した。今年度は初めての高校として、沖縄水産高校と山梨県立笛吹高校の 2 校を含む 5 校にて実施した。

2025 年度出前授業実施状況一覧表

連番	実施日	都道府県	学校名	実施回数	実施時間	実習内容
1	2025/07/02	愛知県	三谷水産高校	7	実習(2H)	二重巻締 ヒートシール
2	2025/07/31	大阪府	大阪農芸高校	2	実習(2H)	二重巻締 キャッピング
3	2025/09/24	沖縄県	沖縄水産高校	1	実習(2H)	二重巻締 ヒートシール
4	2025/12/17	静岡県	焼津水産高校	3	実習(3H)	二重巻締 キャッピング ヒートシール
5	2026/3/12	山梨県	笛吹高校	1	実習(2H)	二重巻締 ヒートシール

※ 黄色のマーキングは、初めて実施した高校。

●分析グループ（奈賀グループ長）

独自研究「地域産物の特色づくり促進および課題の解決」（奈賀教授、浦講師）では、丹波の黒豆や栗、きのこなど兵庫県産の農産物と海外産、他の地域産物を比較して成分的差別化を図るなどの研究を推進している。

2025 年度には兵庫県立氷上高校、愛知県立三谷水産高校、兵庫県立柏原高校、兵庫県立香住高校、兵庫県立農業高校にて出前授業や受け入れ体験を行い、簡単な実験も行った。その他、微生物グループの体験授業への参加、雲雀丘学園フロンティアウィークへの参加、地域イベントやまがたマルシェへの参加と、数多く積極的に活動を行った。2026 年度も継続予定である。

●微生物グループ（松永グループ長）

教育面では主として食品衛生、食品微生物に関する講義と実習を担当した。近年、食品衛生課程を履修する学生が増加しており、特に実践的な知識と技術を身につける「微生物実験Ⅰ・Ⅱ」においては、教育の質を維持しつつ多数の履修者に対応できるよう努めた。2026年度の新校舎移転後においても、円滑な運営を継続していく予定である。

研究面では、川西市との共同研究（小学校給食施設の衛生管理）が最終年度を迎え、その成果を社会に還元した。具体的には、公益財団法人ハローズ財団の助成金を活用し、児童向け衛生教育教材および現場の管理者・調理師向け衛生管理資料を作成・配布した。また、研究成果を論文としてまとめ公表した。

社会貢献活動として「手洗教室」および「科学あそび」を、本学のほか川西市、宝塚市、猪名川町、吹田市、明石市において実施し、保育園児からシニア層まで幅広い参加者を得た。また、雲雀丘学園の中学生・高校生を対象とした探究授業を実施するとともに、本年度は他グループと連携し、同学園の高校生むけデータサイエンス関連授業も実施した。宝塚市公益施設ピピアめふにおける防災イベントについても例年通り実施した。

その他、受験生獲得に向けた取り組みとして、分析グループと連携して学内特別授業を実施し、参加者から入学者を得る成果につながった。また、本年度は新規教員の採用活動を行い1名の採用に至った。来年度は3名体制で教育研究および社会貢献活動のさらなる充実を図る。

(3) 事務室部門の事業活動総括と到達度評価

概要

「2025年度方針（9項目）」に基づいて立案した計画の進捗は以下の通りである。最大のトピックスは、6年ぶりに入学定員（35名）を超える新入生が入学したことである。

到達度評価

活動内容	結果
1. 建学の精神に基づいた人材育成	
（1-1）Brand Bookの製作・展開（愛校心・エンゲージメント向上）	△
2. 求める教育のための施設・設備の拡充	
（2-1）学事システムの改良、将来的な刷新（在学生・教員のユーザビリティ向上）	○
（2-2）電子掲示板の導入、学内外への情報発信（在学生、教職員、周辺地域と共有）	○
3. 充実した学生支援	
（3-1）多様化する学生への対応環境整備（産業保健スタッフによるケアの活性化）	◎
4. 学生募集の更なる取り組み	
（4-1）定員35名充足を目標に置いた活動（WEB出願の導入、総合型選抜の導入、SNSの積極活用、企業や同窓会との連携）	◎

◎：完了 ○：推進中（2026 達成見込） △：推進中（下方修正見込） ×：着手できず

1. 建学の精神に基づいた人材育成

（1-1）Brand Bookの製作・展開（愛校心・エンゲージメント向上）

- ・Brand Bookを単独の一冊子（新たな別冊）として製作する予定であったが、配付物（紙媒体）の増加はデメリットもあるため、「既存の配付物に盛り込む」「ホームページ改修時に別途ページを設ける」等の対応を行なうこととした。

2. 求める教育のための施設・設備の拡充

（2-1）学事システムの改良、将来的な刷新（在学生・教員のユーザビリティ向上）

- ・学事システム（成績管理、出欠管理、等が主な機能）の本格運用を開始して2年目を迎え、主に以下の効果が出ており、順調に運用できている。
 - ・学生自らが成績等を確認できるようになり、学生による自己管理が容易に。（これに伴い、教職員への問合せ（点数は何点か？等）がなくなる）

- ・ペーパーレス化（ペーパーで行っていた成績発表掲示が不要に。これに伴い、掲示物作成の作業工数もゼロに。）
- ・将来的な刷新としては、いわゆるポータルサイト化の可否を検討し始めた1年であった。例えば、他大学で既に多数の導入事例がある「Webシラバス」を学事システムに搭載できないか、等を検討中である。

（2－2）電子掲示板の導入、学内外への情報発信（在学生、教職員、周辺地域と共有）

- ・正門付近に、デジタルサイネージを1台設置することを決定した。なお、それを活用して学外に発信する情報としては、主に下記を考えている。
 - ・大学情報（授業料実質無償化、就職率100%、学生寮建設中、など）
 - ・イベント情報（オープンキャンパス、定例講演会、授業体験イベント、など）
 - ⇒参加申込QRコードの表示、SNSへの誘導、も可能となる。
 - ・会場案内（入学者選抜、入学式や学位記授与式、各種講習会、など）
- ※東洋食品研究所からの発信（オープンセミナーほか）にも対応可能となる。

3. 充実した学生支援

（3－1）多様化する学生への対応環境整備（産業保健スタッフによるケアの活性化）

- ・学校医（内科医）については、昨年度同様の1名体制（月1回）としたが、2025年度からの新たな取り組みとして、校医来学日以外でも校医の本務医療機関を受診できる体制を整備した。この制度の利用者は少数であったものの、学生の困りごとを非常にタイムリーに解決でき、その後の学生生活を支障なく送れる環境づくりにつながった。
- ・心理カウンセラーについては、昨年度までの1名体制（週1回）を、2025年度から2名体制（週2回）に強化した。また、昨年度まで長らく夕方（授業終了後）のみをカウンセリング可能時間としていたが、学生の要望等を踏まえ、2025年度からは「昼休憩時間」と「夕方」の2枠を設けた。
これにより来談者数が増加し、学生の困りごとをタイムリーに把握することで、早期対応・早期支援につなげ、学生が安心して学修・学生生活を継続できる環境整備が進んだ。

4. 学生募集の更なる取り組み

（4－1）定員35名充足を目標に置いた活動（WEB出願の導入、総合型選抜の導入、SNSの積極活用、企業や同窓会との連携）

- ・オープンキャンパス及びミニオープンキャンパスを計6回開催し、年間動員数は過去最多の230名となった。うち受験対象者（高3生、既卒生、社会人、留学生）は約70名（延べ数）であった。

- ・昨年度から「高碕記念奨学金（学費実質無償化）」や「新校舎建設中」について全国の高校に広報を行ない、高校の先生が驚きを持って生徒に熱心に勧めていただいていたことが、2025年度のオープンキャンパス動員増に繋がった。
- ・後述するSNS戦略も功を奏し、約6年ぶりに入学定員（35名）を超える41名が合格、そして入学することとなった。
- ・WEB出願システムについては、2026年度から導入することが決定した。これにより、受験生の利便性が向上し、出願のしやすさにつながることを期待している。
- ・総合型選抜の設計についても完了し、2027年度入試（2026年度実施）から正式に導入することが決定した。年内入試のニーズが年々高まりを見せており、更なる志願者増を期待している。
- ・SNSについても積極的に活用し、例えばLINEの友達数（いわゆるフォロワー）は約5倍（の約240名）となった。情報発信も高頻度に行ない、本学の存在を記憶に留めてもらうよう工夫した。

2025年度 事務室長管掌専門委員会の活動総括

【リスキリング教育専門委員会】西委員長

- （1）第15回社会人育成講習会（概要は以下のとおり）は、定員（各週20名まで）を概ね充足するとともに、受講後アンケートも概ね高評価であった。食品製造業に携わる方々にとって、知識と技術の両面をリスキリングできる場は非常に貴重であり、本学への期待を強く感じている。

（第15回の概要）

開催日程：8月18日(月)～9月5日(金)

受講人数：食品分析技術コース	（1週間）	2名（前年比＋1名）
食品製造技術コース	（1週間）	3名（前年比▲1名）
密封技術コース	（1週間）	8名（前年比＋1名）
食品分析・製造技術コース	（2週間）	7名（前年比＋6名）
食品製造・密封技術コース	（2週間）	0名（前年比▲5名）
食品総合技術コース	（3週間）	9名（前年比±0名）
合計		29名（前年比＋2名）

- （2）第5回 缶詰・レトルト食品業界向けHACCP講習会

開催日程：9月19日(金) ＊1day開催

受講人数：10名

【奨学専門委員会】牧志委員長

(1) 本学独自の3つの奨学金（高碕記念奨学金、成績優秀奨学金、修学支援新制度対象者向け奨学金）の認知度向上

- ・SNS（X、LINE等）を起点に「奨学金特設サイト」へ誘導する導線を整備した。特設サイト閲覧をキッカケにオープンキャンパスに参加した層も見られ、当サイトが奨学制度の認知度向上に寄与したと判断している。また、Y o u T u b e r が本学の「学費実質無償化」を取り上げ、動画として発信している事例も生じている。
- ・様々なイベント（高校生向け進路ガイダンス、農水省主催の食育推進全国大会等）において、奨学制度に関するポスターを掲示し、内容を説明できる教職員も配置して、積極的にPRした。また、2025年度から新たな取り組みとして、オリジナルのテーブルクロスや椅子カバーを製作し、「学費実質無償化」が来場者の目に飛び込むような工夫も行なった。

(2) 奨学金（特に学業成績優秀奨学金）が学ぶ意欲に与える効果の点検（及び向上）

- ・本学独自の奨学金のほとんどが年度末の支給となっているため、学ぶ意欲に与える効果の点検は、2026年度に行なう予定である。具体的には、定性評価（学生へのヒアリング）と定量評価（学業成績等の分析）を予定している。

(4) 総務部門の事業活動総括と到達度評価

1) 事業活動総括

総務部 2025 年度事業計画として取り上げた項目に基づき、従前から、法的に遵守すべき項目や学校法人運営上継続すべき項目に、学長が提唱された大学改革の指針を加えたもので、活動を実施した。

昨年度スタートした新中期計画の 5 年間の事業活動を含め、2025 年度を振り返ると、ほぼ計画通りに推進することができた。

1. 理事会・評議員会

- ① 理事会、評議員会のサポート強化については、私立学校法改正に伴う寄附行為の改定に則り役員を選解任を実施したほか、理事会の開催回数の増加、理事長及び常務理事の職務執行状況の報告、解り易い資料の提供などを実施した。引き続き、資料の質を落とさずに、ペーパーレス化の推進も検討していく。
- ② 学校法人、総務部の課題取組については、私立学校法改正と内部統制強化の時期に合わせて、本年度から新組織運営を開始した。人員の補充、業務の引継ぎ等、新たな組織体制のもと、一部業務を除いては概ね計画的に独立を実施できた。更に、本学に適した管理部門組織体制の検討を進めた結果、2026 年度からは法人総務部、総務部、事務室の 3 部署を統合し、事務局を発足させている。人事評価のシステムにおいては、導入後 3 年が経過し、評価システムの不具合も見られたため、都度改良を行い、本学に適した評価制度に改定すべく、給与テーブルの改定を検討した。

2. 教育環境整備

- ① 将来計画の提案については、教職員の適正人員確保と中長期人員計画の推進を目的として、2025 年 4 月より食品製造グループに教員 1 名、総務部に職員 1 名、7 月より総務部に職員 2 名を増員している。また、2026 年 4 月より更に微生物グループに教員 1 名を採用したほか、分析グループの教員については、現在求人募集活動を継続中である。
- ② 資産の維持保全については、2026 年 4 月からの新校舎における教育スタートに向けて、2026 年 2 月に仮竣工、3 月に旧本館・東洋食品研究所棟からの引越しを終え、6 月の竣工式に向けて準備を進めている。また、旧本館の有効利用を目的として、図書館の 3 階から 1 階への移設プロジェクトを検討しているほか、書類保管スペース、建築事業者の事務所スペースとしての貸与などを検討中である。
- ③ 財務基盤の強化と経理業務については、基本財産の株式配当金の増配に伴い、当面の財務基盤は強化できている。併せて、会計監査人、監事と共に財務管理・内部統制を強化していく。また、現在進行中である大型投資案件が落ち着いた後の支出に関しては、持続可能な経営基盤の確立と共に本学の建学の精神に資する投資を検討していく。
- ④ 情報の提供と公開については、法令に基づく情報公開にとどまらず、本学の更なる知

名度の向上に向けた広報活動に注力していく。2025 年度から開始した高碕記念奨学金や新校舎建設の宣伝効果もあり、2025 年度のオープンキャンパス参加者は過去最高水準となり、2026 年度の新入生は 6 年ぶりに定員に達した。今後も継続して法令に基づく情報開示と広報活動の充実に努める。

- ⑤ 安全衛生活動他については、定年年齢の延長（60 歳から 65 歳へ）やシニア教職員制度の制定（65 歳から 70 歳）、育児・介護休暇制度の拡充など柔軟な働き方を実現するための規程の見直しを行った。また、併せて多様化するハラスメント事案に対応する規程の制定なども実施した。

2) 事業活動到達度経過評価

◎完了、○計画通り、△遅れ、×未着手

項 目	活動内容	評価
1. 理事会・評議員会		
①理事会、評議員会のサポート強化	・私立学校法改正に伴い寄附行為の改定に則って、法令、諸規則等を順守して運営する	○
	・理事、評議員、監事は、改めて法規制に則り選任再任の手続きを実施	○
	・情報の質的向上と解り易い資料の提供と決算情報提供の迅速化	○
	・監事監査の充実と会計監査人との連携強化を図り、健全な法人運営を推進する	○
②学校法人、総務部の課題取組	・私立学校法改正と寄付行為改定に伴い、関連する諸規則規程類の整備見直しを 2024 年度から引き続き計画的に実施する	○
	・総務部組織独立化の構築と管理部門の学校法人運営に適した組織改編の検討を進める	○
	・人事評価制度の運用で、適性効果を見極めて継続的に見直しを実施する	○
2. 教育環境整備		
①将来計画の提案	・教職員の適正人員確保、中長期的人員計画の実現	○
	・教職員の変動に伴うマネジメント体制構築	○
	・既存本館の建替えありきではなく有効的な改築の検討	○
	・教育用設備の更新に伴う計画的な積立金の継続と資金の確保	○
	・体育館棟、教員棟の外壁塗装、食堂エリアの拡張増築	○
②資産の維持保全	・新校舎建設プロジェクト活動の支援協力と建設、新規設備、什器備品の資金確保	○
	・保有財産、将来獲得想定資金等の中長期計画を理事会・評議員会へ継続的定期的に報告	○
	・新校舎・新寮社宅の竣工式、見学会の準備推進	○
	・固定資産、リース資産の計画的な更新、予防的保全、定期点検	○
③財務基盤強化と経理業務	・編成済予算の執行	○
	・競争的外部資金獲得サポート	○

	・内部統制の基本方針の制定、法人運営の内部統制とガバナンスの強化	○
	・補助金獲得の充実化、寄付金募集事業の拡大	○
④情報の提供と公開	・外部公開情報の充実	○
	・教学・事務からの学内情報提供	○
	・経営管理情報報告の迅速化	○
	・部内目標共有化と推進	○
	・新たな通信設備を導入し、教職員学生への情報提供システム化を構築	○
⑤安全衛生活動他	・感染症の予防対策、感染者の対応を継続的に実施する	○
	・働き方改革の一環「フレックスタイム制」「テレワーク」「時間有給休暇」新制度の定着	○
	・校内の安全衛生確保と危険箇所の迅速対応	○
	・教職員の健康管理（維持と予防）	○
	・ハラスメント研修を定期的 to 実施し、新たな社外相談窓口を有効活用する	○
	・非常時・緊急事態対応の向上（警備、セキュリティー）	○
	・事務の合理化、ネット購買システムと新給与システムの更なる改善と定着	○
	・I C Tシステム管理・運営のサポート	○
	・地域との交流推進	○

2-2. 2025年度の事業実績

(1) 私立大学等経常費補助金の獲得

2025年度の私立大学等経常費補助事業に応募し、補助金額 38,654 千円を獲得した。内訳は、一般補助 37,806 千円、特別補助 848 千円となる。

一般補助	37,806 千円	
特別補助	848 千円	
合計	38,654 千円	(前年比▲6,720 千円)

*2025年度は、学生寮の建替えによる寮監の退職や部署の異動を含め、職員が4名減少したため一般補助金が減少した。

(2) 学生支援

①就職状況

今春、20人が卒業した。企業所属生3人、起業予定1人を除く、就職希望者16人全員が内定を獲得し、就職率100%を継続している。

直近5年間の進路状況

	2022 卒	2023 卒	2024 卒	2025 卒	2026 卒
卒業者数	33	27	33	28	20
就職者数	25	19	26	21	16
就職希望者数	25	19	26	21	16
(参考) 内定率	100%	100%	100%	100%	100%
求人企業数	52	54	54	70	68
進学者数	1	1	1	1	0
企業所属者	7	7	5	5	3
その他(起業等)	0	0	1	1	1

※直近5年間の内定先 (*企業名の表記について、法人格(「株式会社」等)を省略)

企業名	2022 卒	2023 卒	2024 卒	2025 卒	2026 卒	合計
東洋製罐	1	3	8	1	-	13 人

森永乳業	-	2	1	1	1	5 人
ベル食品工業	2	-	2	-	-	4 人
キッコーマン食品	1	1	1	-	1	4 人
ハウスウェルネスフーズ	1	-	-	2	1	4 人
東洋製罐グループエンジニアリング	1	1	1	-	-	3 人
エム・シーシー食品	1	-	-	1	1	3 人
本州製罐	1	2	-	-	-	3 人
三笠産業	1	1	-	1	-	3 人
東洋ガラス	-	-	2	1	-	3 人
日本クロージャ	-	-	1	1	1	3 人
明治	1	-	-	-	2	3 人
不二製油	1	-	-	1	-	2 人
桃屋	1	-	1	-	-	2 人
UCC上島珈琲	-	1	-	1	-	2 人
東洋水産	-	1	1	-	-	2 人
信州ビバレッジ	1	-	1	-	-	2 人
はごろもフーズ (企業派遣生除く)	2	-	-	-	-	2 人
九州乳業	-	1	-	1	-	2 人
三立製菓	-	1	-	1	-	2 人
食品環境検査協会	-	-	1	1	-	2 人
グリコマニュファクチャリングジャ パン	-	1	-	-	1	2 人
シノブフーズ	-	-	-	1	1	2 人
山崎製パン	-	-	-	1	-	1 人
ナガセ医薬品 (現・シオノギファーマ)	1	-	-	-	-	1 人
キンキサイン	-	-	1	-	-	1 人
トーアス	-	-	1	-	-	1 人
メビウスパッケージング	1	-	-	-	-	1 人
天狗缶詰	1	-	-	-	-	1 人
淡路農産食品	-	1	-	-	-	1 人
キューピー	-	-	1	-	-	1 人
ヤクルト本社	-	-	-	1	-	1 人
磐田ポッカ食品	1	-	-	-	-	1 人

四国明治	-	1	-	-		1人
鳥栖キューピー	-	1	-	-		1人
ケンコーマヨネーズ	-	-	1	-		1人
磯じまん	-	-	-	1		1人
カネテツデリカフーズ	-	-	-	1		1人
オエノンプロダクトサポート	-	-	-	1		1人
三協デリカ	-	-	-	1		1人
日本サンガリアベバレッジカンパニー	-	-	-	-	1	1人
日清ヨーク	-	-	-	-	1	1人
ジャパンフレッシュ	-	-	-	-	1	1人
ハウス食品分析テクノサービス	-	-	-	-	1	1人
東日本明星	-	-	-	-	1	1人
キリンビバレッジ	-	-	-	-	1	1人
北陸コカ・コーラプロダクツ	-	-	-	-	1	1人

②奨学金

公的及び本学制度ともに、対象者に対して遺漏なく給付を行なった。

- ・日本学生支援機構奨学金（給付等） 2学年計10名
- ・本学奨学金（学業成績優秀者向け、等） 15名
- ・本学奨学金（高碕記念奨学金） 46名

また、日本学生支援機構が緊急実施した「物価高に対する食の支援事業」を活用し、基準を満たす39名に「おこめ券20000円分」を支給した。

③学内ワークスタディ制度

「学内ワークスタディ奨学金実施規程」に則り、学生に給与を支給し、大学の様々な活動に参画してもらっている。なお、主に行なっているワークスタディは、下記である。

- ・本学内で行なう高校生向けの模擬授業のサポートスタッフ
- ・本学外で行なう高校生向けの出前授業のサポートスタッフ
- ・地域連携イベントのサポートスタッフ
- ・大学間連携（連携大学向け食品製造実習など）の製造補助スタッフ
- ・その他、事務室で行なう軽作業（封入作業ほか）スタッフ

④健康相談・カウンセリング・予防接種

校医による健康相談（月1回・3時間半）および臨床心理士によるカウンセリング（週2回・各2時間）を実施するとともに、季節性インフルエンザの予防接種（ワクチン接種）

の啓発を行っている。

また、2024年4月施行の改正障害者差別解消法への対応の一環として、2024年度に「健康調査票」の内容を大幅に刷新したが、2025年度は、この「健康調査票」を有効活用するべく、学生の困りごとを慎重かつタイムリーに把握するための対応フローを構築した。

（３）地域社会との交流・支援

①定例講演会

2024年度は、新校舎建設中に伴う振動や騒音等があったため、講演会の実施を見送ったが、工事が落ち着いた2025年度は、下記テーマで講演会を開催した。

第１部 「麺・パスタ食のススメ」

東洋食品工業短期大学 包装食品工学科

食品製造グループ 教授 入江 謙太郎

第２部 「環境に配慮したPETボトルの再利用活動」

三菱商事プラスチック株式会社

執行役員PET樹脂本部長 金 椿宗 氏

両講演とも、市民にとって身近なテーマであったため、多数の方が聴講された。

②川西警察署への協力

2021年度より、本学の教職員が川西市警察協議会の委員を務めている。同協議会は、川西警察署の業務運営に地域住民の意見を反映させるとともに、警察の取り組みに対する理解と協力を得るための諮問機関である。本学は、川西市唯一の大学として、可能な限りの協力を行っている。

③伊丹税務署との協働

卒業を目前に控え、社会人として巣立つ時期を迎えた2年生を対象に租税教室を開催し、税の種類や使途、源泉徴収票、確定申告などに関する基礎知識を学ぶ機会を提供した。

（４）事務改善（SD活動）

テーマや担当業務、役割に応じて研修等の機会を多数設けた。新しい知識の習得に加え、担当領域の理解を深めて業務の幅を広げ、必要な情報を更新・再確認することで、教職員の能力向上と意識改革につなげた。

(5) その他の大学情報

①大学運営会議 議事一覧

開催月日	概要
2025 年 4 月 9 日	(審議事項) ・ 人事考課について ・ 前年度事業報告に関する事項について ・ 2025 年度の定例講演会の開催是非について (報告事項) ・ 企業内における本学同窓会への協力について ・ 新校舎エントランスに設置する本学年表の製作について
5 月 14 日	(審議事項) ・ 研究データポリシーの改定ならびに解説書の策定について ・ 2024 年度業務に対する教職員表彰の対象者選考について (報告事項) ・ 新校舎の施工費について (その他) ・ 経済誌に掲載されている記事の活用について
6 月 11 日	(審議事項) ・ ガバナンス・コードの点検について ・ 兵庫県立氷上高等学校との高大連携協定締結について (報告事項) なし (その他) ・ 増収後の資金の使途について ・ 兵庫県下企業との新規共同研究について ・ 2025 年度の定例講演会のスケジュール等について ・ 今泉俊一教授の最終講義について ・ 年 4 回開催となった理事会の各回議題について ・ 他大学への編入学制度の可能性模索について ・ 他大学からの共同研究申し入れについて
7 月 9 日	(審議事項) ・ 新校舎エントランスに設置する本学年表の製作業者選定について (報告事項) なし (その他) ・ 新校舎竣工式等に招待するご来賓について ・ 中元、歳暮、手土産等の贈答習慣の廃止（虚礼廃止）について

	・新・総務部長着任に伴う、各種委員会メンバーの変更について
8 月 7 日	(審議事項) ・障害学生に関する学内への情報共有方法について ・2026年度からの現・事務室及び総務部の組織体制の方向性について (報告事項) ・次回理事会（2025年9月）について ・2025年度下半期の大学運営会議日程について
9 月 10 日	(審議事項) ・名誉教授への被推薦者の選考について ・3つのポリシーの妥当性について（産業界意見を踏まえて） ・2026年度の年間休日カレンダーについて (報告事項) なし
10 月 8 日	(審議事項) ・内部統制システムの整備について ・内部監査委員、公的研究費等内部監査委員、コンプライアンス推進委員、リスク管理委員の選任について ・コンプライアンス推進委員会及びリスク管理委員会の開催日程について ・内部監査の実施内容ならびに実施日程について ・2026年度の年間休日数について (報告事項) なし
11 月 12 日	(審議事項) ・内部統制システムの整備（公的研究費等不正防止関連）に係る法人規定及び大学規程の整合の取り方について (報告事項) ・本館改修（図書館移設）プロジェクト発足について ・WEB出願システム導入の検討について
12 月 10 日	(審議事項) ・図書館の開館時間の変更について ・職務分掌見直しの方向性について ・新校舎竣工後の各種行事（竣工式、見学会、等）について (報告事項) なし (その他) ・公的資格取得奨励制度における英検1級の位置づけについて

2026 年 1 月 14 日	(審議事項) ・旅費規定（法人規定）の改定について ・公的資格取得奨励制度運用規程で定める英語関連資格及び検定のランク見直しについて ・2026 年度の各種委員会等のメンバー選定について (報告事項) なし (その他) ・次回教職員連絡会のアジェンダについて
2 月 12 日	(審議事項) ・公的資格取得奨励制度運用規程で定める英語関連資格及び検定のランク見直しについて（再審議） ・センター並びに専門委員会規程の改定について ・2026 年度事業計画の策定について (報告事項) なし
3 月 11 日	(審議事項) なし (報告事項) なし (その他) ・新校舎で初めて開催した学位記授与式の改善点について ・人事考課の日程について ・2025 年度業務に対する教職員表彰の日程について ・新校舎竣工後の各種行事（竣工式、見学会、等）の準備について ・嘱託教職員の処遇について ・2026 年度人事異動に伴う事務手続きについて ・学科長不在時における購買システム承認ルートについて

②教授会 議事一覧

開催月日	概要
2025 年 4 月 10 日	(審議事項) ・2025 年度の共同研究ならびに受託研究について (報告事項) ・2025 年度の各種面談担当者について (その他) ・教授会議事録の電子化について
5 月 15 日	(審議事項) ・教授会規程の改定について ・フードプロセス同好会のクラブ昇格申請について

	・研究データポリシー解説の新規制定について ・男子学生向け借上住宅規程の制定について (報告事項) ・斉志寮運営委員会規約の廃止について ・2026年度入試における指定校について ・修学支援新制度対象者に対する奨学金に関する内規の改定について ・2025年度の微生物使用申請ならびに組換えDNA実験承認申請の結果について ・タッチフットボール同好会の設立承認について (その他) ・学生の近況について
6月9日	(審議事項) ・学生の懲戒について (報告事項) なし
6月30日	(審議事項) なし (報告事項) ・2025年度定例講演会の講演者決定について ・2025年度履修証明プログラム（社会人育成講習会）の申し込み状況について ・1年生インターンシップ受入企業交渉の進捗状況について
8月28日	(審議事項) ・名誉教授候補者の推薦について (報告事項) ・2025年度前期成績（※但し、再試験実施前）について ・1年生インターンシップ受入企業決定について ・2025年度下半期の教授会日程について
9月30日	(審議事項) ・2025年度履修証明プログラム修了者認定について (報告事項) なし
10月6日	(審議事項) ・新規共同研究について ・2025年度前期学業成績について
11月28日	(審議事項) ・学校推薦型選抜（指定校、公募制）の合否判定について ・食品科学技術認定証（フードサイエンティスト）優秀学生の選定について

	(報告事項) ・カセサート大学との学術交流協定に係るMOUの更新について
12月2日	(審議事項) ・学校推薦型選抜（公募制追試験）の合否判定について (報告事項) なし (その他) ・一般選抜における面接試験の実施体制について ・入学者選抜における面接試験評価方法（再確認）について
12月24日	(審議事項) ・学生の不正行為（レポート盗用）について (報告事項) なし
2026年 2月5日	(審議事項) ・一般選抜（Ⅰ期）の合否判定について ・外国人留学生選抜（Ⅱ期）の合否判定について (報告事項) なし
2月26日	(審議事項) ・2年生の卒業判定ならびに1年生の進級判定について ・2025年度学位記授与式及び2026年度入学式における総代について ・学生規則の改定について ・学生等の個人情報保護に関する規程の改定について (報告事項) ・事務組織改編に伴う、諸規程内の部署名等の事務的改訂について
3月4日	(審議事項) ・一般選抜（Ⅱ期）の合否判定について ・入学者選抜に関する規程の改定について ・入学者選抜に関する内規の改定について ・教授会規程の改定について (報告事項) ・2026年度上半期の教授会日程について

④ 教員と担当科目

常勤教員

2025年5月1日現在

氏 名	職 位	学 位	担当科目
飯田 有 二	学 長	工学士	—
甲斐 正次郎	学科長 教 授	学士(工学)	食品容器Ⅰ、食品容器Ⅱ、卒業課題研究
八木 謙一	教 授	博士(理学)	化学Ⅰ、化学Ⅱ、食品分析学Ⅰ、食品分析実験Ⅰ、食品分析実験Ⅱ、卒業課題研究
松永 藤彦	教 授	博士(理学)	殺菌技術、食品微生物学、アセプティック飲料製造実習、微生物実験Ⅰ、微生物実験Ⅱ、殺菌演習、卒業課題研究
今泉 俊一	教 授	工学士	非金属容器密封実習、キャッピング実習
高橋 英史	教 授	博士(農学)	食品製造実習、実践フードプロセス実習、食品加工Ⅰ、食品加工Ⅱ、飲料製造実習、包装食品概論、卒業課題研究
井上 保	教 授	博士(工学)	密封技術ⅠB、密封技術ⅡB、殺菌技術、アセプティック飲料製造実習、非金属容器密封実習、熱プロセス工学、ヒートシール実習、卒業課題研究
奈賀 俊人	教 授	博士(応用生命科学)	食品法規Ⅰ、食品分析実験Ⅰ、食品分析実験Ⅱ、食品分析学Ⅱ、食品化学、データサイエンス・AI、卒業課題研究
入江 謙太郎	教 授	修士(農学) 博士(学術)	食品製造実習、実践フードプロセス実習、飲料製造実習
宮尾 宗央	准教授	工学士	工場衛生管理、食品製造実習、実践フードプロセス実習、殺菌技術、包装食品の保管、卒業課題研究
西 和浩	准教授	—	密封技術ⅠA、密封技術ⅡA、機械製図、金属容器密封実習、二重巻締

			実習、巻締主任技術者認定実習、インターンシップ、卒業課題研究
稲津 早紀子	准教授	博士(医学)	生物学、食品衛生学、微生物実験Ⅰ、微生物実験Ⅱ、卒業課題研究
福島 睦之	講師	農学修士	アセプティック飲料製造実習、食品容器Ⅰ、食品容器Ⅱ、品質管理、実践品質管理、ヒートシール実習、卒業課題研究
遠藤 正剛	講師	—	密封技術ⅠB、密封技術ⅡB、非金属容器密封実習、キャッピング実習
塩野 剛	講師	修士(海事科学)	物理学、金属容器密封実習、二重巻締実習、巻締主任技術者認定実習、卒業課題研究
川内 暢子	講師	博士(理学)	食品加工Ⅰ、食品製造実習、実践フードプロセス実習、飲料製造実習、卒業課題研究
浦 千尋	講師	修士(人間栄養学)	食品分析実験Ⅰ、食品分析実験Ⅱ、食品法規Ⅱ、飲料製造実習、データサイエンス・AⅠ、卒業課題研究
末兼 幸子	助教	農学士	食品分析実験Ⅰ、食品分析実験Ⅱ
上原 稔弘	助教	学士(教養)	アセプティック飲料製造実習、金属容器密封実習、二重巻締実習、巻締主任技術者認定実習、データサイエンス・AⅠ、インターンシップ、食品製造実習、飲料製造実習
関 彩音	助教	修士(栄養学)	食品原料、包装食品概論、食品製造実習、実践フードプロセス実習、飲料製造実習、卒業課題研究

非常勤教員

2025年5月1日現在

氏 名	所属など	担当科目
萩原 知明	東京海洋大学 学術研究院 食品生産科学部門 教授	食品低温利用学
江草 愛	日本獣医生命科学大学 応用生命科学部 教授	畜産加工論
Mihaela Pavel	株式会社イーオン ティーチング	基礎英語Ⅰ、基礎英語Ⅱ、英会話Ⅰ、

	スタッフ	英会話Ⅱ、英会話Ⅲ
田名網 宏子	大阪音楽大学・大阪音楽大学短期 大学部 講師	健康スポーツ論、健康スポーツ実技
秋元 洋祐	神戸学院大学 非常勤講師	法学
中山 一磨	大阪大学大学院 文学研究科 招 へい研究員	文学
村上 友章	流通科学大学 経済学部 准教授	歴史学
田村 穂	徳島文理大学 総合政策学部 講 師	経済学
長尾 佳代子	大阪体育大学 体育学部 教授	リメディアル文章作成技術、文章作 成技術
田島 光義	東洋製罐グループエンジニアリ ング株式会社 設計部 参与	機械要素
早味 俊夫	大阪工業大学 非常勤講師、他	数学Ⅰ、数学Ⅱ
奥原 俊	三重大学 大学院 工学研究科 情 報工学専攻 講師	データサイエンス・AI
山崎 一徳	大同大学 情報学部 情報システ ム学科 准教授	データサイエンス・AI
丸山 紀子	東洋ガラス株式会社 開発本部 製品開発部長	食品容器Ⅰ、食品容器Ⅱ

(6) 成果の外部発信

2025 年度の研究成果を含む外部への発表件数は、外部論文／投稿 11 件 (6)、口頭発表 1 件 (1)、講演・講義 30 件 (28)、特許出願 1 件 (0)、その他 (報告書提出等) 10 件 (19)、合計 53 件 (54) であった。

※ () 内は 2024 年度件数

投稿 11 件

稲津 早紀子	自校式給食調理施設の環境調査と和え物工程のリスク評価 (仮)	東洋食品工業短期大学紀要第 8 号、2025年6月20日 (金)
奈賀 俊人	サラダチキンの塩麴漬けによる旨味の増強、肉質の軟化～兵庫県立氷上高校との探究授業～	東洋食品工業短期大学紀要第 8 号、2025年6月20日 (金)
八木 謙一	イチゴジャムの保管中に起こる糖類変化量についての化学的考察	東洋食品工業短期大学紀要第 8 号、2025年6月20日 (金)
飯田 有二	東洋食品工業短期大学の今後の在り方—私立短期大学を取り巻く環境を踏まえ—	東洋食品工業短期大学紀要第 8 号、2025年6月20日 (金)
宮尾 宗央	「ホタルイカ醤油味付け」の宇宙日本食認証を目指した活動	東洋食品工業短期大学紀要第 8 号、2025年6月20日 (金)
宮尾 宗央	本当にあった食品事故に学ぶ食品安全	ビジネスセンター社_月刊食品機械装置 1 1 月号
川内 暢子	第12回ディスカバー農山漁村の宝アワードへの応募	ディスカバー農山漁村アワード／農林水産省・2025年8月8日 (金) 投稿予定日・原稿等締切日2025年8月12日 (火)
高橋 英史	第10回食育活動表彰 応募	農林水産省 食育活動表彰応募／2025年8月29日 (金)
高橋 英史	「みんなが知りたいシリーズ 食品保存の疑問50」分担執筆	「みんなが知りたいシリーズ 食品保存の疑問50」／一般社団法人 日本食品保蔵科学会 編、発行機関：株式会社成山堂書店／投稿予定日2025年9月2日 (火)、原稿等締切日2025年9月27日 (土)
川内 暢子	(※研究テーマ名は割愛) 近畿農政局兵庫県拠点ホームページへの掲載	近畿農政局兵庫県拠点ホームページへの掲載 (8月に応募した第12回ディスカバー農山漁村の宝アワードの一環) ・2026年2月16日 (月)
稲津 早紀子	晩柑シラップ漬け缶詰の膨張変敗に関する芽胞形成菌の生育性状解析と汚染起点の解明	一般財団法人東洋水産財団学術奨励金への応募 (特許性なし) ・2026年3月25日 (水)

口頭発表 1 件

関 彩音	食材の加熱殺菌後の品質変化に関する基礎的研究 第2報	日本缶詰びん詰レトルト食品協会第 7 4 回技術大会／シャトレザホテル長野、2025年11月20日 (木)
------	----------------------------	---

講演・講義 30 件

高橋 英史	東洋食品工業短期大学の紹介／包装食品について	2025年度食品科学教育協議会第31回研究会／ホテル新大阪、2025年4月19日（土）
宮尾 宗央	本当にあった食品事故に学ぶ	日本食品工業倶楽部_食品の品質保証懇話会_大阪部会、2025年4月11日（金）
宮尾 宗央	レトルト食品の危害要因と品質保証時に留意すべきポイント	（一社）微生物科学協会／兵庫県中央労働センター、2025年5月24日（土）
高橋 英史	容器詰食品の魅力	中村学園大学栄養学部フードマネジメント学科3年生『食品開発論』講義、同大学内、2025年7月4日（金）
宮尾 宗央	本当にあった食品事故に学ぶ食品安全	日本食品工業倶楽部_食品の品質保証懇話会_九州部会／TKP博多駅前シティセンター、2025年7月4日（金）
甲斐 正次郎	三谷水産高校向け夏期講習（食品容器概論）	三谷水産高校_夏期講習会／本学内、2025年7月10日（木）
宮尾 宗央	初心者向け冷凍食品セミナー	日本冷凍空調学会_食品事業委員会／日本冷凍空調学会事務局
宮尾 宗央	食品冷凍の基礎知識と製品開発のポイント	テックデザイン／乳業会館3F会議室（東京）、2025年7月18日（金）
宮尾 宗央	レトルト食品のメリットを最大限に生かした製品開発のポイント	熊本県産業技術センター令和7年度第1回食品加工研修会／同センター大会議室、2025年7月31日（木）
高橋 英史	食品加工学実習（さば水煮缶詰製造）及び講義（容器食品製造時の要点）	奈良女子大学生生活環境学部食物栄養学科「食品加工学実習」の実習と講義／本学内、2025年7月28日（月）
奈賀 俊人	氷上高校体験授業 しょうゆの熟成度分析、火入れ前後の品質	体験授業／東洋食品工業短期大学・2025年8月26日（火）
奈賀 俊人	食品の官能評価と機器分析	講義／兵庫県立柏原高校・2025年9月24日（水）
奈賀 俊人	食品官能評価と機器分析	出前授業／兵庫県立香住高等学校・2025年10月2日（木）
宮尾 宗央	第5回レトルト食品業界向けHACCP講習会	講演／東洋食品工業短期大学・2025年9月19日（金）
高橋 英史	容器詰食品の魅力	食品科学教育協議会 フードサイエンティスト認定講習／東海大学九州カレッジオフィス・2025年10月10日（金）
甲斐 正次郎	福井県立大学授業（海洋生物資源学特別講義）	講義／福井県立大学小浜キャンパス・2025年9月16日（火）、17日（水）
宮尾 宗央	冷凍食品の包材トラブルを防ぐ設計	食品冷凍技術推進機構 第57回食品冷凍技術懇談会・東洋食品工業短期大学（WEB）／2025年9月29日（月）
宮尾 宗央	現場で活きるレトルト食品の衛生管理：原料管理から流通まで	講演／鹿児島大学農学部・2025年10月4日（土）
宮尾 宗央	事例で学ぶ、レトルト食品開発のポイント	講演／三重県工業研究所 三重県教育文化会館・2025年11月7日（金）
宮尾 宗央	食品冷凍技士試験受講者向け動画	日本冷凍空調学会 食品冷凍技士講習会／オンデマンド・2026年1月10日（土）
高橋 英史	容器詰食品の魅力	食品科学教育協議会 フードサイエンティスト認定研修／山陽女子短期大学（広島県）・2025年11月13日（木）
高橋 英史	兵庫県立農業大学校 食品加工Ⅰ 講義と実習	講義と実習／東洋食品工業短期大学・2025年10月20日（月）

宮尾 宗央	水分活性の基礎知識と微生物制御・製品設計への応用	講演(テックデザイン)／東洋食品工業短期大学(WE B)・2025年11月20日(木)
入江 謙太郎	食品企業に関して	講義／成蹊大学理工学部応用化学専攻2年生「応用化学特別講義Ⅱ」・2025年12月4日(木)
奈賀 俊人	身近な食品をデータ化しよう	講義(高1全クラス)／雲雀ヶ丘学園高等学校・2025年12月8日(月)、12月10日(水)
奈賀 俊人	食品の官能評価分析と機器分析	出前授業／兵庫県立氷上高等学校・2025年12月15日(月)
高橋 英史	レトルト食品の品質	日缶協・レトルト食品密封管理講習会／e-ラーニング・2025年12月31日(水)
宮尾 宗央	レトルト食品の基礎知識と製品開発のポイント	テックデザイン／テックデザインセミナールーム、2026年1月9日(金)
奈賀 俊人	乳酸菌飲料の風味の数値解析	出前授業／兵庫県立農業高等学校・2026年3月26日(木)
宮尾 宗央	レトルト食品の基礎知識と製品開発のポイント	講演／三和澱粉工業(株)本社工場・2026年4月7日(火)

特許出願 1 件

高橋 英史	魚類容器詰食品	特許庁へ特許出願／弁理士法人R&Cに出願案作成依頼／2026年2月21日までに出席
-------	---------	---

報告書提出等 10 件

奈賀 俊人	丹波栗試験結果報告書	J A 丹波ひかみ特産センター、2025年4月～5月
稲津 早紀子	手洗い教室	農林水産省 食育活動表彰応募／2025年8月29日(金)
井上 保	PACRAFT(株)との打合せ資料(2025年度)	オンライン会議(短大)／2025年9月10日(水)
宮尾 宗央	冷凍・冷蔵惣菜及び水産加工品の品質向上の検討	受託研究報告書／株式会社大市珍味・2026年2月16日(月)
川内 暢子	猪肉中に含まれるイミダゾールジペプチド及び酸化修飾体に関する研究および猪肉の容器詰食品開発の検討	共同研究報告書／公立大学法人大阪(大阪公立大学大学院理学研究科生物化学専攻分子生物学研究室)及び株式会社おゝみや・2026年2月18日(水)送付
関 彩音	食材の殺菌処理適性についてのDB構築	受託研究報告書／東洋製罐株式会社テクニカルセンター・2026年2月27日(金)送付
高橋 英史	魚介類容器詰食品の開発～未利用鯛の有効活用 缶詰化～	共同研究報告書／株式会社 丸大・2026年3月2日送付
高橋 英史	マダイ水煮缶詰製造	受託製造報告書／株式会社 丸大・2026年3月2日送付
井上 保	リサイクルを加味したラベル工程の構築	秘密保持誓約書に基づく報告／D I C株式会社・2026年3月9日送付
井上 保	超音波シールに関する基礎情報の取得(継続)	試験結果報告書／東洋製罐株式会社テクニカルセンター・2026年3月9日送付